

令和5年度 第3回学校運営協議会及び第2回学校関係者評価委員会 報告

- 1 日 時 令和6年2月8日(木) 午前10時から正午まで
- 2 会 場 静岡県立東部特別支援学校 会議室
- 3 参加者 <学校運営協議会委員>
- | | |
|---------------------|----------|
| 伊豆市児童発達センター長 | 大川 紀美子 様 |
| 相談支援事業所リベルテ主任 | 竹村 夏絵 様 |
| 寺家区長 | 川口 瑞 様 |
| 韮山ライオンズクラブ会長 | 山口 純一 様 |
| 伊豆医療福祉センター | |
| サポートセンターみらいず相談支援専門員 | 杉本 智司 様 |
| 東部特別支援学校PTA会長 | 熊野 万起子 様 |
| ※ 欠席 同窓会 コスモ 代表 | 小島 明子 様 |
- <学校職員>
- | | |
|----------|-----------------|
| 校 長 | 長崎 良夫 |
| 教 頭 | 佐藤 公平 |
| 事 務 長 | 加藤 等 |
| 小学部主事 | 小林 暉長 |
| 中学部主事 | 稲 葉 修 |
| 高等部主事 | 西村 雄一 |
| 教務課長 | 齋田 祐亮 |
| 安全部長 | 芹澤由香里 (医療的ケア課長) |
| 授業部長 | 山田 達也 (自立活動課長) |
| 連携部 | 福井 照子 (地域連携課長) |
| ※ 欠席 副校長 | 田淵 尚子 |
- 4 会議次第
- (1) 開会
 - (2) 校長挨拶
 - (3) 協議
 - ア 令和5年度学校自己評価の報告、令和6年度に向けて
 - (ア) 学校評価について
 - (イ) 4つの柱に沿って報告、質疑・応答
 - (ウ) 令和6年度学校経営計画案
 - イ グループ協議

『今年度の学校評価と次年度の学校運営に向けて』
 - (4) 令和6年度学校運営協議会の委員について
 - (5) 校長挨拶
 - (6) 事務連絡
 - (7) 閉会

5 議事録

(1) 開会

(2) 校長挨拶

- ・ 1月に地震があった。地形や幹線道路の少なさ、人口の減少など、能登半島と伊豆半島は環境が似ている。地域の実態に合わせて教育活動を進めていきたい。
- ・ 児童生徒の学習活動から
コロナが落ち着いてきて、改めて直接体験の大切さを感じている。子どもたちの笑顔も戻ってきた。学校として取り組むことはたくさんあるが、取捨選択して大事な所を中心に進めていきたい。
- ・ 今年度の進路状況について
肢体不自由により、介護や介助等の必要性があるため、就職することの難しさを感じている。障害のある人もない人も一緒に生活していける世の中を目指していきたい。

(3) 協議

ア 令和5年度学校自己評価の報告、令和6年度に向けて

(ア) 学校評価について (教務課長)

アンケートの対象、回答率、質問内容等の概要を説明 (資料参照)

(イ) 4つの柱に沿って報告 (資料参照)

<守る>

インシデントは1学期の件数が多かった。年度当初に起きやすい事例について共有し注意喚起を行っていききたい。防災訓練では、防火扉の通行の確認、ポータブルトイレの設営等を行った。たてわり活動では、学部を超えた関わりができた。外部講師による人権研修を実施した。

<育む>

キャリア学習会を通して、児童生徒、保護者に卒業後の生活について知ってもらうことができた。課題としてキャリア発達の共通理解を進めていききたい。ICT操作が難しい子どもの対応方法を研修していききたい。研修では、「目指す姿」の共有できたが、より明確にして研修を進めていききたい。体育や芸術、音楽など本物に触れる機会をつくっていききたい。授業研や学習会で専門性を高めるための研修を行った。自立活動では、児童生徒の実態に合った指導を行い、PDCAサイクルで実践できた。

<つなぐ>

関係機関との連携を行い、ニーズに応じた会議を進められた。交流学习では、今年度は葦山南小との交流も始まり、地域に根ざした交流が進められた。

<高める>

不祥事、違反、事故は0。指導計画の活用がうまく反映できなかったため、評価はB。また「自分らしく働く」ための目標の共有、意識の改革ができなかった。

全体を通して、特に質問等はなし

(ウ) 令和6年度学校経営計画案（校長）

現在作成中で、成果目標や達成方法について検討している。取組目標は抽象的な目標、達成方法で具現化して成果目標の達成を目指す。経営計画書は一般に公開し、代表的な指導内容を示すものと考えている。今回の会議でご意見をいただき、さらに修正していきたい。

イ グループ協議

(ア) 3グループに（4つの柱）に分かれて協議

(イ) 全体で共有、意見交換

<守る>

事故やインシデントには、枠組みがあって、実害レベルによって分けられている。内容の濃淡を出すことで受け取り方は変わっていくので、数値（事故やインシデントの件数）だけでなく見られるとよい。先生たちの緊張感を薄くできる環境づくりをしていくことが大切。事故が起きた時、当事者が振り返って、学年等で確認し、全体に共有できる仕組みは素晴らしい。

災害時にこの地域は、伊豆特、伊豆医療センターもあり安心してすごせる地域だと感じている。災害時の対応など学校として現在やっていることを公開することが第一歩。（保護者や地域、伊豆特や伊豆医療センターなど）。地域の方などに公開することで、本校のサポーターになってくれる人がいるかもしれない。オープンにする段階に来ている。

<育む>

高等部の生徒が企画したものが「小学部の児童に喜んでもらえてうれしかった」という感想があった。自分で企画して考えていくことは、コミュニケーション力や実行力を高め、生きる力に繋がっていくと考えられる。キャリア教育は、仕事につなげるだけではなく、将来の夢や自分の生き方につながっていくことの大切だと感じる。

本校の子どもたちは、体の制約から自分を捉える（自己理解する）ことが難しい実態があるが、学校に来ることが楽しいと思えることが大切。学習が楽しくないと学びに向かえない。楽しんで取り組むことで自分の得意やできることが自然と分かり、自己理解に繋がっていく。

本物に触れる機会として、高等部では三味線、ハーモニカ、ダンス、サッカーなどの専門家を招き学習を行った。来年度は知徳高校の吹奏楽部を呼ぶ予定。本物に触れる機会は大事。今後もやっていきたい。コロナの影響も収まってきたので、積極的に学校の外に出て本物に触れる機会も大切にしていきたい。

<つなぐ>

学校公開は、事業所としてもぜひ来年度からやってほしい。移行支援会議では、訪デイなどの事業所も呼んでもらい情報共有していきたい。相談支援事業所との連携をもっと密にしていきたい。事業所決定に向けて、もっと入ってもらい、ど

うしたらよいか話し合えるとよい。モニタリングにも入ってもらって、情報交換し、進路が決めていけるとよい。

(4) 令和6年度学校運営協議会の委員について

役職等で引き継ぐ方には、連絡をおねがいしていただきたい。(ライオンズクラブは連絡済み。)

来年度もよろしく申し上げます。

(5) 校長挨拶

- ・具体的な提案をいただいた。来年度の教育課程に反映していきたい。
- ・今年度から交流学习の範囲を葦山南小にも広げた。葦山地区にある小中特支のグループで共生教育を進めていきたい。
- ・外部への発信として、反射炉で作品展示を行った。多くの人に見てもらうことは大切。
- ・ライオンズクラブでは、職場実習の願いを全メンバーに配っていただけた。地域に根ざした経営者の方にプッシュしていただくことで地域まんべんなく周知していただくことはありがたい。
- ・東部特支を理解していただくことが、子どもたちの幸せな未来につながっていくと考えている。

(6) 事務連絡 特になし

(7) 閉会

<第3回学校運営協議会の様子>

